

令和5年度（2023年度）事業報告

東京湾水先区水先人会

I. 重点目標について

1. 水先会を取り巻く一般情勢

令和5年度（2023年度）の事業報告の策定に当たり、東京湾水先区水先人会（以下、「当会」という。）を取り巻く一般情勢は、次の通りであった。

(1) 新型コロナウイルスについて

国内においてワクチン接種が進み、感染数の減少が続き5月8日には感染法上のコロナの分類が5類に移行され季節性インフルエンザと同じ扱いとなった。

当会では関係当局や検疫所等と緊密な連絡を取り、感染防止に努めた結果、水先作業による感染者は一人も発生せず水先サービスの維持及び適正な水先業務の遂行を維持できた。

(2) 台風来襲及び異常気象について

2023年度の台風発生数は、17個であった。日本への上陸数は、1個で東京湾への上陸は無かった。当会は従来から東京湾内における台風襲来時の走錨防止を含む海難事故防止について注力しており、2021年7月から施行された海上交通安全法の『湾外等の安全な海域への避難、錨泊制限等に係る勧告・命令制度』の遵守並びに海上保安庁、海事・港湾関係者、行政機関で構成する「協議会」に参画して台風等接近時の船舶の円滑な避難に備えている。

一方、温暖化の影響によるものと思われる気象の激甚化が顕著で水先業務の事故防止に一層の配慮が求められている。

(3) 会員数の状況について

2023年度年初の会員数は、総数154名（一級113名、二級29名、三級12名、・・・陸上勤務者7名、新入水先人5名を除いた実稼働者は、142名）であり、新制度による水先人が94%を占めるまでに至っている。

この構成員の変化は、出身母体の多様化も相まって、まさに世代交代が確実に進んでいる状況にある。また、2023年度は、退会者が13名であったが、今後予想される毎年6名前後の退会者に対し、円滑な水先業務の遂行に支障をきたさないよう、本会を取り巻く情勢を踏まえた上で、計画的な採用について慎重に対応していく必要がある。

(4) 水先業務量の現況について

2017年度までの作業量は年間約5万作業隻数以上あったが、2018年度以降、特に2020年度は、新型コロナ禍の中、水先作業隻数は4.2万作業隻数となり、前年比で8.5%と大幅に減少した。水先料実績は、水先作業隻数の減少を上回る9.6%の減少であった。

その後水先作業隻数は、約4.2万作業隻数で概ね横這いとなり、水先料実績も概ね横這いであった。2023年度水先作業隻数は約4.2万作業隻数で引き続き横這いであったが、水先料実績は2.2%の増加となった。引き続き新年度の実績に注目して行きたい。

(5) 船舶の大型化について

横浜区では、14.2万G/T級（LOA 360m級、1.3～1.4万TEU積）の大型コンテナ船の寄港が、また東京区においても、14.1万G/T級（LOA 368m 1.3万TEU積）の大型コンテナ船が定期的に寄港している。いずれの港区でも大型化する船型を既存のバースに受入れざるを得ず、水先の引受に際しては、港湾局、バース管理者及び海上保安部等の関係者と協議・検討を重ね、安全を確認しながら対応している。

このような状況の中、昨年度に引き続き技術的観点から、設備面での安全対策も関係者に強く要望しており、南本牧については、大型船の常時入港に備え導灯の設置を関東地方整備局並びに横浜市港湾局に強く働きかけている。今後も当会としては、大型船の受け入れに対する安全を担保するため、引受条件について慎重に検討していく。

(6) 東京湾内の港湾整備や航行管制等の状況について

新本牧ふ頭建設工事が2019年に開始され、横浜区沖の錨地の再編や横浜航路延伸が実施された。川崎区では京浜運河での橋梁工事が実施されている。管轄官庁を含む関係者による安全対策協議会等が開催されているが、水先人会としては、安全運航を確保するため、積極的に提言・要請をしている。

(7) 日本水先人会連合会（以下連合会という）の主たる活動等の関連事項

1) 水先人の人材確保・育成等に関する検討会関連

① モニタリング委員会の廃止と3者による情報交換

2015年4月に設置された「水先人の人材確保・育成等に関する検討会」は、会則実効性及び中小水先区の水先人不足に対する円滑な派遣支援の確保を図るため、モニタリング委員会を設置し、評価検証を行ってきた。しかし2022年度をもって当初の目的は達成されたためモニタリング委員会は廃止、国交省、船協、連合会の3者による情報交換の場を新たに設け従前からの船協連合会業務連絡会と共に定期的を開催している。

② 二級及び三級水先人の募集人数について

同検討会「第四次とりまとめ」により、全国の水先区において2023年度から2025年度まで、二級水先人は毎年2人、三級水先人は毎年2人＋ α （ α は3人以下の範囲内で、 α については、毎年、一級水先人の応募状況を確認し決定）の募集人数とすることが認められた。

2. 令和5年度（2023年度）は、当会のおかれた上記1.の一般情勢を勘案し、次に掲げる重点目標を設定し実現すべく対応策を実施した結果等は次の通りである。

(1) 水先業務の安定した供給を継続すること。

- ① 今年度も従前と同様に、ユーザーに対する水先業務の安定的な供給に支障をきたした事例はなく、安定供給を実践することができた。
- ② 水先業務の安定的な供給を確保するためには、適正な員数の水先人が必要である。2023年度初における会員数は前述したが、同年度末における会員数は、総数146名（一級111名、二級24名、三級11名）となった。陸上勤務者6名と新入水先人2名を除いた実稼働者は、138名であった。なお、2024年度以降の3年間で凡そ20名近い一級水先人の退会が見込まれている。これらの状況を踏まえ、2023年度は三級2名、一級6名を募集し、水先業務の安定供給を図った。
- ③ 当会では、2021年度から進級一級水先人が順次実職に就いているが、円滑な水先業務の遂行を確保するには、今後も適正な員数の水先人を確保していく必要があり、特に新入一級水先人の募集人数は、将来の経済状況を考慮して、慎重に検討する必要がある。

(2) 船舶の航行及び港内業務の安全を確保すること

- ① 連合会の主導による水先人の検証制度の深度化に相応して各級水先人技術レベルを高めるため、入会年次別の技術研修会（座学及び操船

シミュレーター訓練)及び質疑応答形式の研修会を引き続き確実に実施し、安全運航の維持に努めた。

- ② 事故等の発生状況は、2022年度/2023年度比で、
海難：0件/5件、事故（海難を含む）：2件/10件、不適切運航：3件/3件という結果となり、2022年度に比較し、2023年度の事故等は増加した。今後は海難、事故及び不適切運航等の減少に努めたい。2023年度は、会則に基づき海難に関わる必要な審査等を行うため事故防止対策委員会を2回開催した（内1回は書面開催）。
- ③ 船舶の大型化（特に、コンテナ船）に伴い、これらの船舶の受入れに関し、関係官庁、パース管理者等の関係者と安全運航を達成するために協議・検討を重ねたが、今後も厳しく慎重に進めていく必要がある。新たな大型船の入港に際しては航行安全委員会の中でシミュレーターによる検証を実施すると共に、会員に対して操船シミュレーター訓練を実施した。

(3) 会則実行性の強化を図ること。

- ① 水先業務の適正な実施の観点から、会員の指導・監督が効果的に果たされていることを船社や関係機関等へ実証し、不信感や懸念を払拭する必要がある。会則・規程等により、事故、不適切運航及び水先人の品位欠如等の指導・監督の対象案件については、事故防止対策委員会で審議し、更に海務委員会等でも該当事案について顛末、原因究明や再発防止対策等を検討した。
- ② 審議・検討した事例については、適宜、会長通達で全会員へ周知し注意喚起するとともに、原因が水先人だけではない場合は具体的な改善をユーザーと共に実施した。特に不適切運航や品位の欠如については、連合会を通じて「船協・連合会業務連絡会」等に当会の取った処置を含めて報告した。
- ③ 今後も定例会、各種の技術研修及び会長通達等で会則実行性の強化による安全の確保について粘り強く啓蒙活動を継続することとし、事故防止を図ることにより安全確保を図りたい。

(4) 新入水先人等に対して充実した養成教育を実施すること。

- ① 過去、新入水先人の実務研修に係わる規程類は、実情に合わせて夫々の年度において整備・改定してきた。これら規程類に基づき、2023年度も各級の新入水先人に対する入会後の陸上研修、その後の実船研修（共同操船）と、支障はなく順調に実施することができた。

- ② 新入水先人、進級水先人及び各級水先人が受ける業務評価や進級評価については、計画的に専任指導水先人との共同操船の機会を設け、被評価対象水先人の技術的な力量を、評価シートにより厳しく評価することができた。
- ③ 当会の方針である“水先人のキャリアパスプラン”に従い、二級・三級水先人の上級職への進級とそれに求められる養成も、計画通り確実に実施した。

II. 会則第4条に規定された各事業

1. 会員の品位保持に関する諸施策の実施

(1) 会員に対する指導、監督及び連絡の実施

- ① 水先業務に関わる情報の提供及び注意喚起、事故・不適切運航についての会員、関係者への対応、各種議事録・参考資料等の会長業務連絡等での周知を遅滞なく行った。

(2) 会員の継続的かつ定期的健康管理の実施

水先人にとって健康であることが就業の前提であることから、会員に対して、2023年4月～6月に自主健康診断を石川町内科クリニック等で行い、会員全員が受診した。

(3) 会員の品位保持に係る法定委員会の開催

法定委員会のうち、会員の品位保持に関わる綱紀委員会及び事故防止対策委員会を必要に応じ開催した。(添付資料 別紙-1参照)

(4) ISO品質管理システムの運用

- ① 2023年11月に内部監査を実施し、同年12月に第2回サーベイランス審査を受審し、「不適合報告：無」及び「改善事項：0件」の判定を受け、システムが効果的に実施・維持されていることが確認され、認証の継続が承認された。
- ② ISO管理委員会は3回開催した。

(5) 連合会の実施する研修の受講

- ① 連合会の安全研修が、7月19～20日に神戸(1名)、8月9～10日に横浜(27名)で実施され、合計28名の水先人が参加した。
- ② 連合会の主催する新人研修が開催され、5月には一級水先人(16期生5名)、10月には二級水先人(9期生1名)三級水先人(12B期生1

名、14A 期生 1 名) がそれぞれ同研修を受講した。

2. 合同事務所の設置及び運営に関する事務の実施

(1) オペレーション業務及び水先料金管理業務の実施

- ① 水先引受、配乗等のオペレーション業務については、新人職員の業務に対する習熟も深まり、水先の受付や配乗業務は概して順調に為されたといえる。
- ② 配乗に関し、部内においてダブルチェックの励行徹底、業務連絡会を実施し改善に努めた結果、配乗ミスは通期で、発生しなかった。引続き上記対策と併せコミュニケーションの徹底等により水先業務の実施に支障がないよう確実な配乗を実施していきたい。

(2) 水先業務システムの改善と維持

2018 年 6 月に機器及びシステムの大幅な更改を行い、その後微小な改善を行いつつ運用してきた。2023 年度は、6 月に WG による検討を重ねた大幅な更改を行いシステムを改善した。

今後この更改結果の検証につとめ引き続き必要な改善や維持に努めたい。

(3) ユーザーに係る法定委員会の開催

ユーザー対応委員会及び業務運営協議会は、各々 2 回開催した。

(添付資料：別紙－1 参照)

(4) 常設委員会等の定期的開催

総会、理事会、常勤役員会、総務委員会、海務委員会、業務委員会、財務委員会及び ISO 管理委員会を定期的で開催した。

(添付資料：別紙－1 参照)

(5) 公認会計士による監査及び情報公開

- ① 例年の通り、年度末における収支決算報告書の作成に際し、公認会計士の監査を受け、決算報告書等の財務諸表が適正である旨の監査報告書を取得した。
- ② 情報公開については、ホームページ上に会則で定められた情報の公開を行った。また、当会の情報公開基準に基づくユーザーからの情報開示請求はなかった。

(6) 個人情報保護方針に基づく個人情報管理の確実な履行

「個人情報保護規則」、「個人情報取扱規程」及び「特定個人情報取扱規程」の定めに従って、これらを適正に運用し、水先人及び職員等の個人情報の保護を確実に行った。

3. 水先人の養成・教育に関し必要な事務の実施

(1) 新入及び進級水先人に対する実務研修の実施

- ① 一級水先人 17 期生 2 名 (2024 年 3 月入会)、二級水先人 9 期生 1 名 (2023 年 6 月入会) 及び三級水先人 12B 期生 1 名 / 14A 期生 1 名 (2023 年 9 月入会) に対し、入会后、所定の陸上研修及び実船研修を実施した。これら 5 名の新人水先人は、それぞれの評価終了後、所定の訓練 (単独操船) に移行することとなる。

(2) 水先修業生及び進級水先修業生に対する水先実務修習の実施

- ① 一級水先修業生 17 期生 2 名 (2024 年 3 月入会済)、及び三級水先修業生 13B 期生 1 名 / 15A 期生 1 名 (2024 年 9 月入会予定) に対し、水先養成制度に基づいた水先区個別教育 (乗船修習を主とする水先実務修習) を実施した。(A は乗船実歴がある者、B は乗船実歴が無いものを示す。)
- ② 2023 年度の一級水先修業生 2 名は、2023 年 12 月に水先人試験 (口述) を受験し合格した。その後、2024 年 3 月に入会した。三級水先修業生 2 名は、2024 年 5 月に水先人試験 (口述) を受験予定である。

(3) 教育訓練センターによる教育訓練計画の立案及びその推進

例年の通り、教育訓練センターが教育訓練計画を策定し、これに従い新入水先人及び業務経験年数別の各級水先人に座学、操船シミュレーター訓練及び操船に関する質疑応答形式を含む技術研修会等を実施した。更に、業務評価、進級評価を適正に実施した。(添付資料 別紙-2 参照)

(4) 会員に対する技術研修及び操船シミュレーター訓練の実施

上記 (3) の各技術研修以外に次のような技術研修を実施した。

- ① 「二人乗り大型船 (港内業務) の主水先人養成に関する規程」に従い、二人乗り大型船の港内業務に従事する主水先人の養成を行った。
- ② 「航行業務 VLCC 研修要領」に従い、航行業務 VLCC 研修を実施し、航行業務に従事する大型危険物積載船及び二人乗り LNG 船の水先人の養成を行った。
- ③ 不適切操船が発生した特定のバースについては、事故の再発防止の観

点から操船要領等についての技術研修（座学／操船シミュレーター）を実施し、操船技術・技量の向上と伝承を図った。

4. 本会及び会員の業務に関して、連合会及び官公署等との連絡協議の実施

(1) 連合会の理事、その他の役員及び委員等の派遣

役員、理事、その他の水先人を、連合会の要請に従い、各種委員会委員として派遣した。指名されたこれらの委員は、関連委員会への出席、水先関連課題に関する協議会・検討会、その他の懇談会等に参加し、水先制度や水先人後継者の確保・育成などを含む諸課題について積極的に発言する等、精力的に活動した。

(2) 連合会が行う水先人の確保に関する施策への協力

① 連合会の中小規模水先区の水先人の後継者不足対策の一環として実施している派遣支援制度について、当会会員からも積極的な協力を得て、長崎水先区（滞在型）に派遣した。

② 当会としては、その他に釜石、釧路、八戸、仙台湾、鹿島、田子の浦2名、博多、鹿児島（スポット型）の複数免許保有者がおり、合計9名の会員が中小規模水先区の派遣支援に協力していることとなる。

(3) 各外郭団体に対する理事、その他の役員及び委員等の派遣

当会が関係する諸外郭団体については、役員、理事、その他の水先人を当該諸団体の委員等として派遣し、各種委員会、協議会等に参加して、その運営に協力した。

(4) 海上保安部及びその他団体との業務連絡会、意見交換会等の開催

「安全運航強調月間」期間中の各種業務連絡会、意見交換会の他、関係バース施設者等と懇談会や意見交換会を行った。

5. その他（広報活動）

(1) 本会の広報活動の一環として各種メディア・団体等からの出演、取材の依頼に対応し、各級水先人の協力を得て参画、水先業務を紹介した。

(2) 会報「ANJIN」は、季刊発行を継続し、多方面の読者に好評を博している。

Ⅲ. 令和5年度（2023年度）の会員の異動状況

2023年4月1日 在籍員数	会員の異動		2024年3月31日 在籍員数
	入会	退会	
154	5	13	146

（一級水先人：111名、二級水先人：24名、三級水先人：11名）

（2024年3月31日現在）

以上

（添付資料）

添付 別紙-1 「令和5年度 総会、法定委員会、常設委員会等 開催一覧表」

添付 別紙-2 「令和5年度 各級別技術研修会 実施報告・評価実施報告」

完

令和5年度 総会、法定委員会、常設委員会等 開催一覧表

委員会名	回数	開催日		
通常総会	2	令和5年6月2日	令和6年3月28日	
臨時総会	1	令和5年12月22日		
理事会	9	令和5年5月22日	令和5年6月2日	令和5年12月12日
		令和6年3月14日 (書面開催：4月6日、4月21日、7月24日、8月21日、10月24日)		
法定委員会（4委員会）		7		
綱紀委員会	1	令和5年7月11日		
ユーザー対応委員会	2	令和5年8月3日	令和6年3月12日	
事故防止対策委員会	2	令和5年4月17日	令和5年7月18日(書面開催)	
業務運営協議会	2	令和5年7月12日	令和6年2月9日	
常設委員会（5委員会）		21		
総務委員会	5	令和5年5月17日	令和5年6月30日	令和5年10月16日
		令和5年11月21日	令和5年3月7日	
業務委員会	3	令和5年7月20日(書面開催)	令和5年10月31日(書面開催)	令和6年3月18日
海務委員会	5	令和5年4月11日	令和5年7月10日	令和5年10月10日
		令和5年11月21日	令和6年2月28日	
財務委員会	5	令和5年5月19日	令和5年6月21日	令和5年8月1日
		令和5年12月7日	令和6年3月8日	
ISO管理委員会	3	令和5年4月12日(書面開催)	令和5年7月10日	令和5年10月17日
安全管理小委員会	0			
教育訓練会議	1	令和6年3月26日		
教育訓練センター委員会	2	令和5年7月18日	令和6年3月18日	
常勤役員会	4	令和5年5月29日	令和5年7月28日	令和5年10月4日
		令和6年3月13日		
定例会	3	令和5年7月27日	令和5年11月15日	令和6年2月15日

技術研修会 2023年度 実施報告

対象者	年	研修名	船型等	港	着離	パス名	Remark	2023年度対象者	
新規 1級	① 1年目	1	JXTG-1の着離棧時の注意点に関する講義の実施						2023.09.12 実施 講師(古崎 洋志) (2022.03 入会) 渡部、泉川、松崎 鐘ヶ江、小徳
		2	小型タンカーの用錨操船	G/T 2,998	千葉	A	COS-14A		
						A	OIREC-8		
						A	MK-7		
		3	強風下でのバルカー着棧		木更津	A	KM-W10		
	4	強風下でのPCC着離棧	LOA 200m 級	横浜	A	NS	NEの強風		
					A	NS	SWの強風		
	② 2年目	1	強風下でのPCC着離棧	LOA 200m 級	横浜	A	NS	NEの強風	2023.04.20 実施 講師(猪野木 哲二) (2021.03 入会) 福井、中村、熊田
		2	バルカーの着棧 (タグ3隻使用)	G/T 40,000 (DWT 70,000)	横浜	A	KFUTO		
		3	タンカーの着棧 (タグ3隻使用)	G/T 40,000 (DWT 70,000)	千葉	A	ID-2		
		4	LPGタンカー着棧 (タグ3隻使用)	G/T 48,000 (75,000m ³) 級	横浜	A	TG-O		
					川崎	D	ENE-A1		
	千葉	A	MBENI						
	③ 3年目	1	LPGタンカー着棧 (タグ3隻使用)	G/T 48,000 (75,000m ³) 級	横浜	A	TG-O		
					川崎	D	ENE-A1		
					千葉	A	MBENI		
		2	アフラマックスタンカーの離着 棧 (強潮流を含む)	G/T 60,000 (DWT100,000) 級	千葉	D	KSB-E		
					千葉	A	KSB-E		
		川崎	A	ENE0-W					
	3	大型客船の着離棧 アジマス推進器装備船	G/T 90,228 級	横浜	A	SPC			
					D	SPB			
	④ 4年目	1	大型客船の着離棧 アジマス推進器装備船	G/T 90,228 級	横浜	A	SPC		2024.02.26 実施 講師(古崎 洋志) (2020.03 入会) Y.宇野、K.宇野 兒玉、田島
		2	大型コンテナ船の着離棧	G/T 89,800 (8,000 TEU) 級	横浜	A	HD4		
						D	HD4		
						A	MC3		
		3	大型バルカーの離棧	DWT 170,000 級	君津	D	KM-C8		
	4	LNG船の離棧(さやりんご型)	G/T 124,000 (150,000 m ³) 級	木更津	D	TD-F2			
	5	VLCCの離棧	G/T 150,000 級	根岸	D	5JX-AW			
⑤ 5年目 ①	1	大型バルカーの離棧	DWT 170,000 級	川崎	D	JFK-EA		2023.03.28 実施 講師(雨宮 伊作) (2019.03 入会) 酒井、増山 月館、安達	
	2	LNG船の離棧(さやりんご型)	G/T 124,000 (150,000 m ³) 級	木更津	D	TD-F2			
	3	VLCCの離棧	G/T 150,000 級	根岸	D	5JX-AW			
⑤ 5年目 ②	1	大型コンテナ船の着離棧	G/T 232,618 (23,000 TEU) 級	横浜	A	MC3、4		2023.09.22 実施 講師(堀家 勝) (2019.03 入会) 酒井、増山 月館、安達	
					D	MC3、4			
2	大型コンテナ船の操船見学	G/T 120,000 ~150,000 級	横浜	A	MC1~4 HD4				

(新規追加)

対象者	年	研修名	船型等	港	着離	パース名	Remark	2023年度対象者
進級1級	② 2年目	1	LPGタンカー着棧 (タグ3隻使用)	G/T 48,000 (75,000m ³)級	横浜	A	TG-5N	2023.07.24 実施 講師(池澤 清孝) (2022.09 進級) 日向野、久坂、丸木、 田妻、川部
					横浜	A	TG-O	
					川崎	A	JX-GAS	
					千葉	A	MBENI	
					川崎	D	ENE-A1	
	③ 3年目	1	アフラマックスタンカーの離着 棧 (強潮流を含む)	G/T 60,000 (DWT100,000) 級	千葉	D	KSB-E	2023.07.31 実施 講師(高木 信之) (2021.09 進級) 大矢、野村、蒲生、 西川、大原
					千葉	A	KSB-E	
					川崎	A	ENE0-W	
		2	大型客船の着離棧 アジマス推進器装備船	G/T 90,228 級	横浜	A	SPC	
					D	SPB		
	④ 4年目	1	大型コンテナ船の着離棧	G/T 110,000 (9,100 TEU) 級	横浜	A	HD4	対象者:なし
						D	HD4	
	2	大型バルカーの離棧	DWT 170,000 級	君津	D	KM-C8		
	⑤ 5年目	1	LNG船の離棧(モス型)	G/T 124,000 (150,000 m ³) 級	木更津	D	TD-F2	対象者:なし
2		VLCCの離棧	G/T 150,000 級	根岸	D	5JX-AW		
3		大型コンテナ船の着離棧	G/T 232,618 (23,000 TEU) 級	横浜	A	MC3、4		
	D				MC3、4			

新規2級	① 1年目	1	小型タンカーの用錨操船	G/T 2,998	千葉	A	COS-14A	2023.04.13 実施 講師(柏木 伸二) (2022.06 入会) 池崎
						A	OIREC-8	
						A	MK-7	
	② 2年目	2	強風下でのバルカー着棧		木更津	A	KM-W10	
						3	JXTG-1の着離棧時の注意点に関する講義の実施	
		1	強風下でのPCC着離棧	LOA 200m 級	横浜	A	NS	NEの強風
② 2年目	2	バルカーの着棧 (タグ3隻使用)	G/T 40,000 (DWT 70,000) 級	横浜	A	KFUTO	2023.07.25 実施 講師(山田 孝之) (2021.06 入会) 柴田	
				千葉	A	N-SILO		
	1	強風下でのPCC着離棧	LOA 200m 級	横浜	A	NS		SWの強風
進級2級	① 1年目	1	小型タンカーの用錨操船	G/T 2,998	千葉	A	COS-14A	2023.04.13 実施 講師(柏木 伸二) (2019.09 入会) 藤沢、鈴木、野宮
						A	OIREC-8	
						A	MK-7	
	② 2年目	2	強風下でのバルカー着棧		木更津	A	KM-W10	
						3	JXTG-1の着離棧時の注意点に関する講義の実施	
		1	強風下でのPCC着離棧	LOA 200m 級	横浜	A	NS	NEの強風
② 2年目	2	バルカーの着棧 (タグ3隻使用)	G/T 40,000 (DWT 70,000) 級	横浜	A	KFUTO	2023.07.25 実施 講師(山田 孝之) (2018.09 入会) 鳥海	
				千葉	A	N-SILO		
	1	強風下でのPCC着離棧	LOA 200m 級	横浜	A	NS		SWの強風

対象者	年	研修名	実施日	2023年度対象者
新規一級	2年目	航行業務技術研修会	2024.03.19 実施	講師 (藤本 良夫) 福井、中村、熊田
進級一級	3年目	航行業務技術研修会	2024.08.09 実施	講師 (冷水 雄一) 大矢、野村、蒲生、大原

対象者	年	研修名	実施日	2023年度対象者
新規一級	2年目	技術研修会(質疑応答) 単独業務開始1年後	2023.06.28 実施	講師 (冷水 雄一、藤本 良夫、佐藤 講二、長谷川 弘一) 福井、中村、熊田
新規二級	2年目	技術研修会(質疑応答) 単独業務開始1年後	2023.06.28 実施	講師 (冷水 雄一、藤本 良夫、佐藤 講二、長谷川 弘一) 池崎
新規三級	2年目	技術研修会(質疑応答) 実船研修後	2023.06.28 実施	講師 (冷水 雄一、藤本 良夫、佐藤 講二、長谷川 弘一) 北川、福本(休業中)
進級二級	1年目	技術研修会(質疑応答) 実船研修後	2023.08.30 実施	講師 (冷水 雄一、藤本 良夫、佐藤 講二、長谷川 弘一、N高木 信之) 藤沢、鈴木、野宮

2024/3/26

2023年度 評価実施報告

	2023年度対象者	実施予定日	専任指導水先人	
			航行	港内
新規一級 研修生 評価	(2022.03 入会) 渡部、泉川、松崎、鐘ヶ江、小徳	2023.04.17	-	-
新規三級 研修生 中間評価	(2022.09 入会) 辻村、箕浦、鳥光	2023.04.17	9	9
新規三級 研修生 最終評価	(2022.09 入会) 辻村、箕浦、鳥光	2023.06.28	18	18
新規三級 業務評価(航行・港内)	(2020.09 入会) 上窪、平永、本橋、福本	2023.06.28	8	8
新規三級 水先修業生 評価	(2023.09 入会予定) 竹内、藤原	2023.06.22(書面)	-	-
新規二級 研修生 中間評価	(2023.06 入会予定) 佐々木	2023.08.30	3	3
進級二級 業務評価(航行・港内)	(2016.09 入会) 木原、小林、横田、大前、松家	2023.08.30	10	10
進級一級 進級評価(航行・港内)	(2023.09 進級予定者) 山下、室村、山本、大谷、住沢 野口、古江、本田、夏井	2023.08.30	18	18
進級二級 進級評価(航行・港内)	(2023.09 進級予定者) 藤沢、鈴木、野宮	2023.08.30	6	6
進級一級 業務評価(航行)	(2021.09 進級) 大矢、野村、蒲生、西川、大原	2023.08.30	10	-
進級一級 業務評価(港内)	進級一級 対象者なし	-	-	-
新規一級 業務評価(港内)	(2019.03 入会) 酒井、増山、月舘、安達	2023.09.29	-	8
新規二級 研修生 最終評価	(2023.06 入会予定) 佐々木	2023.10.30	6	6
新規二級 業務評価(港内)	新規二級 対象者なし	-	-	-
新規二級 業務評価(航行)	(2020.06 入会) 杉山	2023.10.30	2	-
進級一級 水先修業生 評価	(2023年度 受験者) 磯飛、松森、武富、亀山、吉川、雨宮、小山	2023.12.18(書面)	-	-
新規一級 水先修業生 評価	(2024.03 入会予定) 城戸、赤松	2024.01.15(書面)	-	-
進級二級 水先修業生 評価	(2023年度 受験者) 上窪、平永、本橋、福本	2024.02.21(書面)	-	-
新規一級 業務評価(航行)	(2022.03 入会) 福井、中村、熊田	2024.03.12	6	-
新規二級 水先修業生 評価	(2024.06 入会予定) 対象者なし	-	-	-
			96	86
			182	